

1 狂犬の死に寄せる哀歌

お集まりの 善良な皆の衆
わたしの歌に耳をお貸しくださませ
それは まことに短い歌^{はなし}
ながくは お引きとめいたしません

イズリングトンの町に ひとりの男が住んでいました 5
男のことを 世間では
いつも教会に通^{かよ}って 祈りを忘れない
信心深い男 と申しておりました

心はやさしく 親切で
敵も味方も区別なく 救いの手を差しのべました 10
毎朝 自分の服を着るときは
裸の者にも かならず衣服を施^{ほどこ}しました

その町に 犬が一匹やって来ました
町にはすでに 犬がたくさんおりました
雑種に ペットに 子犬に 猟犬に 15
それに 性質^{たち}の悪い野良犬まで

その犬と男は はじめ仲の良い友達でした
ところが犬は あるときかっとう血がのぼり
自分の密^{ひそ}かな欲望^{ねが}を叶^{かな}えるために
狂^かって男に噛みつきました 20

町の 四方の通りから
驚いた近所の衆が駆け寄って
こんなに立派な男に噛みつくなんて
気違い犬め^{ののし} と罵りました

キリスト様の信者の自には 25
噛まれた痕^{あと}は深く 重傷でした
みんなは その犬を狂犬だと罵って
男はきっと死んでしまう と言いました

ところがやがて 奇跡が起こり
町の下衆もが言ったことは 嘘八百という始末
その男の噛まれた傷は 回復し
死んだのは 犬の方だったのです

30

(山中光義訳)